

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	聴覚・ろう重複センターすぎな		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 17日		～ 2025年 1月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 1月 17日		～ 2025年 1月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室内の改装により、個室の設置や活動室拡大。 カレンダーや一日の予定、時計等、可視化した情報を大部屋内の 一か所にまとめて設置している。	1人ひとりの子どもたちの様子に合わせて個室で対応したり、 広い活動室を使ったりしている。 イラストや写真を使い、テープで線引きして情報を整理し、子 どもたちに分かりやすいようにしている。	今すでに掲示していることで満足するのではなく、子どもた ちの様子を見て、より分かりやすい環境を模索する。
2	個別に合わせた物の作成や対応をしている。 一人ひとりの思いに寄り添った対応を心がけている。	個別対応の子には、外出先でも持ち運びできるように名刺入れ サイズのポケット手帳に絵カードを入れている。それを使いな がら提示し、ご本人と一つひとつ丁寧に確認するようにしてい る。 おやつ作り等、やりたいことは可能な限り子どもたち自身で行 えるようにしている。	ご本人の気持ちを考え、寄り添い、ときに気持ちを代弁して 気持ちを共感していく。 やりたいことができる環境を整えていく。
3	日頃から子どもの様子や支援について情報共有ができています。	その日勤務しているスタッフが利用の子どもの支援ポイントを 確認した上で、支援にあたっている。	支援について知っているだろう、分かっているだろうではな く、日頃から職員がスタッフに支援ポイントを伝え、確認し ていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現場の人員は十分であるが、マンツーマン対応の子どもも多い ため、正職員や児童指導員の数が少ない。	アルバイトスタッフの年齢層に偏りがある。	児童指導員の育成や人員の確保。
2	保護者からの連絡事項に手が回らないことがある。	子どもたちのその日の様子やそのとききで対応をしているた め、手が回らなくなってしまう難しさがある。	スタッフ間で情報共有するとともに、職員、スタッフで声を 掛け合って確認していく。
3			